

掘りだそう、自然の力。

Calbee

TSE code : 2229

カルビー株式会社

2026.7.30

カルビーグループ決算説明会

2027年3月期 第1四半期

2026年4月1日～2026年6月30日

CFOの田邊です。

本日、説明に先立ちまして、このたび熊本県で発生した災害により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

それでは、2027年3月期第1四半期の業績についてご説明いたします。

- 第1四半期は、国内・海外事業ともに堅調で、45億円の増収、13億円の増益
売上高・営業利益ともに計画を達成
 - ・ 国内は、昨秋のばれいしょ収量減影響が継続する中でもスナック販売が堅調
価格・規格改定効果も寄与して全体増益を牽引
 - ・ 海外は、アジア・オセアニアを中心に成長モメンタムを維持
 - ・ 北米は、中長期の成長に向けて組織基盤を強化し、下期以降の施策の検討推進

- 中東情勢影響は第1四半期では限定的で、想定内で推移
今後も状況を精査しつつ、スピード感をもって対策を進め、
利益影響最小化に努める

スライド1をご覧ください。
本日まで説明するサマリーです。

第1四半期は、国内・海外事業ともに堅調に推移し、45億円の増収、13億円の増益となり、売上高、営業利益ともに計画を達成いたしました。

国内は、昨秋のばれいしょ収量減影響が継続する中、スナック販売が堅調で、価格・規格改定効果も寄与して連結全体の増益を牽引しました。

海外は、アジア・オセアニアを中心に成長モメンタムを維持しています。
北米は、中長期の成長に向けて組織基盤を強化し、下期以降の施策の検討を推進しました。

中東情勢影響は第1四半期では限定的で、想定内で推移しました。
今後も状況を精査しつつ、スピード感をもって対策を進め、利益影響の最小化に努めてまいります。

- 年間利益影響額は△30億円の見通しに変更なし
- コストインパクトは第1四半期では限定的なものの、第2四半期が最も大きいと想定
- 対応策を機動的かつ柔軟に決断することで、製品の安定供給と利益影響の最小化の実現を目指す

リリース日	内容
5/12	製品の安定供給のために、一部製品を2色印刷パッケージに切り替え
6/26	幅広い製品で10月からの価格改定を予定
7/9	直近の原材料調達見通しを踏まえ、パッケージ表面をカラー印刷に見直し

【表面のフルカラー印刷を再開したパッケージのイメージ】



スライド2をご覧ください。
まず最初に、中東情勢影響への対応状況についてご説明いたします。

年間の利益影響額は、5月にお示した△30億円から変更ございません。

コストインパクトは第1四半期では限定的なものの、第2四半期が最も多く出る想定です。中東情勢影響に対しては、製品の安定供給を最優先に、5月12日に発表した2色パッケージに続き、幅広いアイテムでの価格改定やパッケージの一部変更等、対応策を適宜決断してきました。

今後も外部環境は流動的ですが、状況変化に応じて機動的かつ柔軟に対応し、製品の安定供給と利益影響の最小化の実現を目指してまいります。

2027年3月期 第1四半期業績 サマリ

(億円)	2026年3月期 第1四半期 実績	2027年3月期 第1四半期 実績	伸び率	2027年3月期 第1四半期 計画	計画比
売上高	822	868	+5.5%	866	100.2%
国内	618	630	+2.0%	628	100.3%
海外	205	238	+16.2%	238	99.9%
営業利益	53	66	+24.4%	64	102.9%
営業利益率	6.4%	7.6%	+1.2pts	7.4%	+0.2pts
国内	45	57	+26.4%	57	100.0%
海外	8	9	+13.0%	7	125.5%
経常利益	53	67	+26.1%	65	101.9%
当期純利益※	35	41	+15.2%	43	95.0%
EBITDA	94	111	+18.0%	110	101.0%
EBITDA率	11.5%	12.8%	+1.4pts	12.7%	+0.1pts
国内	77	90	+17.9%	91	98.8%
海外	18	21	+18.3%	19	111.7%

※親会社株主に帰属する当期純利益

売上高:

- 国内事業は、スナックが増収
- 海外事業は、売上高成長継続
為替影響も寄与

営業利益:

- 中東情勢影響を含むコスト上昇があるも、
国内の単価改善効果や海外の増収効果
により増益
- 前年より稼働が増加したせとうち広島工場も
増益に寄与

【参考】:月末為替レート(円/\$)

	前期末	6月末	計画レート
2026年3月期	149.52	144.81	-
2027年3月期	159.88	162.39	155.0

スライド3をご覧ください。

2027年3月期第1四半期連結業績について、ご説明いたします。

売上高は 868億円で、前年同期比 5.5%増、計画比 100.2%

営業利益は 66億円で、前年同期比 24.4%増、計画比 102.9%

当期純利益は 41億円で、前年同期比 15.2%増、計画比 95.0% となりました。

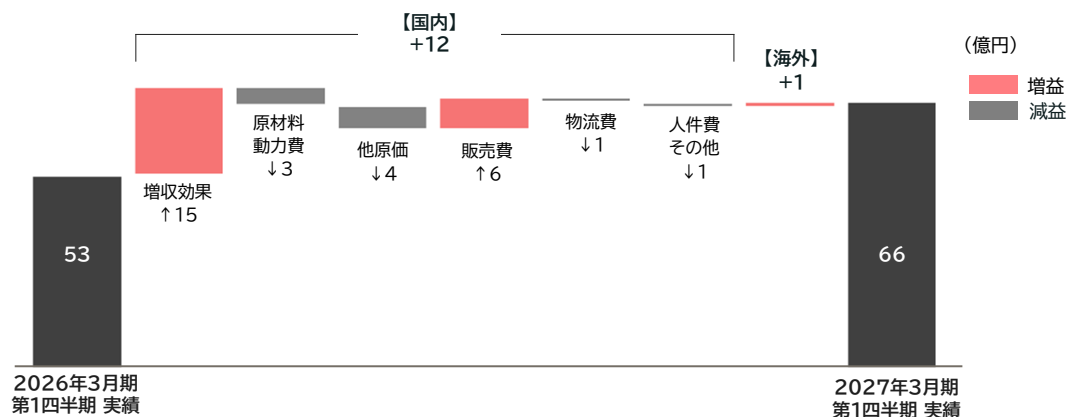
売上高は、国内・海外ともに増収となりました。国内事業ではスナックが増収。海外事業では売上の成長継続と為替影響も寄与しました。

営業利益は中東情勢影響を含むコスト上昇はありましたが、国内の単価改善効果や海外の増収効果により、増益となりました。

また、前年より稼働が増加したせとうち広島工場も増益に寄与しています。

2027年3月期 第1四半期業績 営業利益増減分析

廻りだそう、自然の力。
Calbee



【補足】 増収効果： 数量減(△1億円 主にシリアル)、単価改善効果※(+16億円)
 原材料・動力費： 包材(△3億円)、輸入原料(△3億円)、食油(+2億円)、動力費(+2億円)
 他原価： 数量減による生産性悪化、安定生産のための労務費増
 販売費： マーケティング活動の時期ずれ

※ 価格・規格改定効果、MIX改善等

© Calbee 4

スライド4をご覧ください。
営業利益の増減分析について、ご説明いたします。

連結全体では前年同期比13億円の増益となりました。
内訳は国内事業で12億円のプラス、海外事業で1億円のプラスです。

国内は、円安やインフレに伴うコスト上昇に加え、数量減影響や労務費増があったものの、単価改善効果がこれらを吸収し、増益となりました。

2027年3月期 第1四半期業績 国内事業

(億円)	2027年3月期 第1四半期	前年同期比	前年同期比 %
国内売上高	630	+12	+2.0%
スナック	585	+10	+1.8%
ポテトチップス	260	+6	+2.4%
じゃがりこ	124	△2	△1.3%
その他スナック	201	+6	+3.1%
シリアル	78	△3	△3.9%
新カテゴリ・その他	42	+6	+16.3%
リポート等控除	△75	△1	—
国内営業利益	57	+12	+26.4%
営業利益率	9.0%	+1.7pts	—
EBITDA	90	+14	+17.9%
EBITDA率	14.3%	+1.9pts	—
土産用製品	43	+1	+2.1%

※「スナック」「シリアル」「新カテゴリ・その他」の売上高はリポート等控除前の金額を記載しています。

- 価格改定効果とスナックの堅調な販売により増収を達成
- シリアルは、市場縮小の影響を受けて減収
- 新カテゴリ・その他は、甘しょ事業が伸長

スライド5をご覧ください。
国内製品別の売上高についてご説明いたします。

価格改定効果およびスナックの堅調な販売により、前年同期比12億円の増収を達成しました。

スナックは、10億円の増収。
内訳は、「ポテトチップス」+6億円、「じゃがりこ」△2億円、その他スナック+6億円となりました。

シリアルは、市場縮小の影響を受けて、3億円の減収です。

新カテゴリ・その他は、6億円の増収で、主に甘しょ事業が伸長しました。

詳細要因については、次のスライドでご説明いたします。

2027年3月期 第1四半期業績 国内事業

経りだそう、自然の力。
Calbee

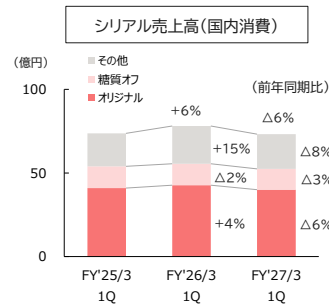
※出所：弊インテージSRI+

スナック (売上高 +2%)

- ポテトチップス：(数量 +0.5%)
 - ・ 2月後半からの販促解禁以降、積極的な販売が継続し、前年の高い水準を上回る実績
 - ・ 「うすしお味」等の定番品に加え、「堅あげポテト」「ピザポテト」等独自性の高いブランドの好調も貢献
- じゃがりこ：(数量 △4%)
 - ・ 昨秋のばれいしょ収量減影響が継続
- その他スナック：
 - ・ 小麦系、コーン・豆系スナックいずれも増収
 - ・ 小麦系スナックは前年下期からのモメンタム維持で二桁伸長
 - ・ 豆系スナック「miino」は前年の高成長に続き、販売数量をさらに拡大

シリアル (売上高 △4%)

- ・ シリアル市場規模：前年同期比95%※
- ・ 価格・規格改定等の影響もあり、相対的に価格の高い商品の需要が減少
- ・ 継続的なマーケティングと営業活動との連携による露出の拡大や、企画品の投入で販売モメンタムの回復を目指す



© Calbee 6

スライド6をご覧ください。

「ポテトチップス」は前年同期比で増収、数量は+0.5%増加しました。2月後半からの販促解禁以降、積極的な販売が継続し、前年の高い水準を上回る実績を実現しました。「うすしお味」等の定番品だけでなく、「堅あげポテト」や「ピザポテト」等の独自性の高いブランドの好調も貢献しています。

「じゃがりこ」は前年同期比で減収、数量は△4%の減少となりました。昨秋のばれいしょ収量減影響が継続し、販売数量を伸ばしきれませんでした。

その他スナックは、小麦系、コーン・豆系スナックのいずれも増収となりました。特に小麦系スナックは前年下期からの好調を維持し、二桁伸長となっています。また、豆系スナック「miino」は前年の高い成長に続き、販売数量をさらに拡大しています。

シリアルは、前年同期比で減収。シリアル市場規模は前年同期比95%と厳しい環境となっています。価格・規格改定等の影響もあり、相対的に価格が高い商品の需要が減少したとみています。継続的なマーケティングと営業活動との連携による露出の拡大や、企画品の投入で販売モメンタムの回復を目指します。

2027年3月期 第1四半期業績 海外事業

廻りだそう、自然の力。
Calbee

(億円)	2027年3月期 第1四半期	前年同期比	前年同期比 %	為替影響除く 実質伸び率
海外売上高 ※1	238	+33	+16.2%	+5.6%
欧米 ※2	129	+17	+15.6%	+5.4%
北米(既存) ※3	75	+6	+8.9%	△1.5%
アジア・オセアニア	141	+26	+22.2%	+10.3%
リポート等控除	△32	△10	—	—
海外営業利益	9.2	+1.1	+13.0%	—
営業利益率	3.9%	△0.1pts	—	—
欧米	△0.2	△3.3	—	—
北米(既存)	2.0	△1.7	△46.2%	—
アジア・オセアニア	9.3	+4.4	+88.4%	—
EBITDA	20.9	+3.2	+18.3%	—
EBITDA率	8.8%	+0.2pts	—	—
欧米	8.5	△1.7	△16.7%	—
北米(既存)	6.1	△1.8	△23.0%	—
アジア・オセアニア	12.4	+4.9	+66.4%	—

海外地域別売上高詳細・決算補足資料参照
<https://www.calbee.co.jp/jr/library/shiryou/>

アジア・オセアニアが成長のモメンタムを牽引
中東情勢の影響により英国・アジア地域で
一部コストが増加するも、増収増益

■ 欧米

- ・北米(既存)と英国が現地通貨ベースで減収も、前年8月に連結子会社化したHodo, Inc.が増収に貢献
- ・北米(既存)は、コアブランドの販売は堅調もPB/OEMの取引縮小で減収
利益面では成長基盤強化の投資もあり減益

■ アジア・オセアニア

- ・中華圏と豪州・ニュージーランドが増収増益を牽引
- ・インドネシアは売上高が二桁伸長、収益性の高い製品の売上拡大や原価改善で利益も改善傾向

※1 地域別の売上高はリポート等控除前の金額を記載しています。
※2 欧米には新規事業のHodo, Inc.が含まれます。
※3 北米(既存)はHodo, Inc.を含みません。

© Calbee 7

スライド7をご覧ください。
海外事業の地域別業績について、ご説明いたします。

アジア・オセアニアが成長のモメンタムを牽引し、中東情勢の影響により英国やアジア地域で一部コストが増加するも、増収増益となりました。

欧米は、+17億円の増収、△3.3億円の減益となりました。
北米(既存)と英国が現地通貨ベースで減収も、昨年8月に連結子会社化したHodo, Inc.が増収に貢献しました。
北米(既存)は、コアブランドの販売は堅調もPB/OEMの取引縮小で減収しました。利益面では成長基盤強化の投資もあり、減益となっています。

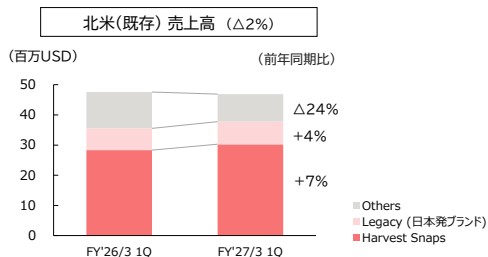
アジア・オセアニアは、売上高は+26億円の増収、+4.4億円の増益となりました。
中華圏と豪州・ニュージーランドが増収増益を牽引しました。
インドネシアは売上高が二桁伸長。利益トレンドは収益性の高い製品の売上拡大や原価改善でリカバリー傾向です。

2027年3月期 第1四半期業績 海外事業トピックス

絶りだそう、自然の力。
Calbee

■ 北米(既存):

- 「Harvest Snaps」は好調を継続
- 競合環境の厳しいLegacyも営業活動を強化し、「かっぱえびせん」などの販売が回復
- 新成長戦略に基づく取り組みを開始
 - 専門人材の採用により営業・マーケティング体制を強化
 - Better For You市場向けの商品ラインアップ拡充やSNSなどを活用したデジタルマーケティング施策を準備中



■ 中華圏 (売上高 +17%※):

※ 現地通貨ベース

- 小売店舗向け売上高は前年同期比+16% (スナック+21%、シリアル+4%)※
- 日本のIPやフレーバーを活用した企画品が好評で「Jagabee」や「ポテトチップス」が二桁伸長
- シリアルでは「マイグラ」に続き「フルグラ」も現地OEM生産・販売を開始し、現地ニーズに合わせた手ごろな価格帯で数量伸長に寄与
- 小売店舗への営業強化も継続



日本のキャラクターや独自の味を活かしたコラボレーション企画品



OEM生産の「フルグラ」5月末より販売を開始

■ 中東情勢影響:

- 英国やアジア地域で包材・動力・物流費用が増加
- 今後のコスト影響拡大を見込み、地域特性を鑑みながら、第2四半期以降で価格改定等のリカバリー策を順次実施

© Calbee 8

スライド8をご覧ください。海外事業のトピックスをご説明いたします。

まず、北米(既存)についてです。

コアブランドの売上高は堅調でした。「Harvest Snaps」は好調を継続し、競合環境の厳しいLegacyも営業活動を強化し、「かっぱえびせん」などの販売が回復しました。

また、5月に発表した新成長戦略に基づく取り組みを開始しています。

営業・マーケティング体制を強化するとともに、今後に向けてBetter For You市場向けの商品ラインアップの拡充や、デジタルマーケティング施策の準備を進めています。

続いて、中華圏です。

第1四半期は、売上高+17%と伸長し、営業利益も増加となりました。

中長期の成長に向けて取り組みを強化していた、小売店舗向けの売上高が前年同期比+16%と拡大しています。

日本のIPやフレーバーを活用した企画品や、5月末に現地OEM生産・販売を開始した「フルグラ」、小売店舗への営業強化が、増収に貢献しました。

最後に、中東情勢影響についてご説明します。

英国やアジア地域で包材、動力費、物流費が増加しています。

今後のコスト影響拡大を見込み、地域特性を鑑みながら、第2四半期以降で価格改定等のリカバリー策を順次実施してまいります。

2026年10-11月 価格・規格改定

廻りだそう、自然の力。
Calbee

実施時期	2022年 3月期	2023年3月期				2024年3月期			2025年3月期		2026年3月期					2027年3月期		
	2022年 1-2月	2022年 6-7月	2022年 9-10月	2022年 11月	2023年 6月	2023年 8-10月	2024年 6月	2025年 2月	2025年 4月	2025年 6月	2025年 7月	2025年 9月	2026年 2月	2026年 6月	2026年 9月	2026年 10-11月		
主な 対象製品	 	   	   	   	   	   	   	   	   	   	   	   	   	   	   	   	   	   
主な 改定率	内容量: △5% 想定価格: +7-10%	内容量: △10% 想定価格: +10-20%	想定価格: +10-20%	想定価格: +10-20%	想定価格: +3-15%	想定価格: +5-20%	想定価格: +3-10%	内容量: △7-10%	想定価格: +5-19%	想定価格: +4-10%	内容量: △8%	想定価格: +5-10%	想定価格: +8-15%	想定価格: +5-10 /+30%	想定価格: +3-10%	想定価格: +3-15%		

© Calbee 9

最後に、スライド9をご覧ください。

6月26日に発表しました価格・規格改定についてご説明いたします。

2026年10-11月にスナックの複数の製品で価格改定を行います。
想定改定率は、3-15%です。

以上で、説明を終了いたします。
ご清聴ありがとうございました。

参考資料

連結損益計算書

廻りだそう、自然の力。
Calbee

(百万円)	2027年3月期 第1四半期 実績	構成比 (%)	前年同期比 (%)	計画比 (%)	2027年3月期 計画	構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	86,759	100.0	+5.5	100.2	370,000	100.0	+8.8
売上総利益	28,081	32.4	+8.4	100.9	118,000	31.9	+6.5
販売管理費	21,495	24.8	+4.3	100.3	91,800	24.8	+8.5
販売費	3,114	3.6	△12.0	91.3	16,300	4.4	+14.9
物流費	6,680	7.7	+6.6	102.5	27,600	7.5	+6.7
人件費	6,985	8.1	+7.7	100.4	29,200	7.9	+10.8
その他経費	4,715	5.4	+9.0	103.9	18,700	5.1	+2.6
営業利益	6,585	7.6	+24.4	102.9	26,200	7.1	+0.1
経常利益	6,664	7.7	+26.1	101.9	26,700	7.2	△1.4
当期純利益 ※	4,085	4.7	+15.2	95.0	17,400	4.7	+0.4

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

財政状況及びキャッシュフロー

廻りだそう、自然の力。
Calbee

(百万円)	2026年3月末	2026年6月末	増減
資産合計	327,609	323,759	△3,849
流動資産	131,684	126,534	△5,150 *1
固定資産	195,924	197,225	+1,300
負債合計	105,835	104,889	△945
流動負債	64,941	62,214	△2,726
固定負債	40,894	42,674	+1,780
純資産	221,774	218,870	△2,903
Net Cash	13,503	5,158	△8,345
自己資本比率	64.3%	64.1%	△0.2pts

(百万円)	2025年6月末	2026年6月末	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	9,655	5,938	△3,717
投資活動による キャッシュ・フロー	△11,677	△5,301	+6,375 *2
財務活動による キャッシュ・フロー	△7,267	△8,124	△856

【補足】

*1 流動資産:現金及び預金の減少 △6,314百万円

*2 投資CF :有形固定資産の取得による支出が減少 +4,646百万円

本資料に関するお問い合わせ：

カルビー株式会社 IR

E-mail : 2229ir@calbee.co.jp

<https://www.calbee.co.jp/ir/>

- グラフ上の事業年度表記はFY(Fiscal Year)を用いています。FY2027/3(FY'27/3)は2027年3月期を指しており、他の事業年度も同様に表記しております。特にその指定がない表記は、暦年を表しています。
- 本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。

2026 年 7 月 30 日開催
2027 年 3 月期第1四半期 決算説明会での主な質疑応答

Q1. 第 1 四半期の営業利益が前年同期比で増益となった一方、計画比では小幅な上振れにとどまっている。中東情勢影響を踏まえ、今後の収益動向をどう見ているのか。

第 1 四半期は増収増益となり、計画も達成した。一方で、中東情勢の影響については、第 2 四半期に最も大きく顕在化し、利益面での影響も相対的に大きくなると見込んでいる。調達価格の上昇は第 2 四半期がピークになり、下期は第 2 四半期ほどの上昇は見込んでいない。10 月の価格改定後も販売モメンタムの維持に努めつつ、収益性の改善を図っていく考えである。中東情勢の影響を織り込んだうえで、通期計画の達成に向けて取り組んでいく。

Q2. 中東情勢影響による営業利益の想定額△30 億に変更はないのか。原材料価格が第 3 四半期以降に落ち着く見通しならば、想定額が減る可能性もあるのか。通期の見通しについてはどう考えているのか。

中東情勢による営業利益への影響額は、現時点では従来想定から変更していない。第 1 四半期では、国内の影響は想定を下回る一方、海外ではやや上振れている部分があり、全体としては計画を若干下回る水準で推移している。ただし、先行きには引き続き不透明感があるため、通期では従来の想定を維持している。調達対応や価格・規格改定などを通じて、全社で影響の最小化に取り組んでいる。通期見通しについては、今後のばれいしよの収穫状況なども踏まえ、必要に応じて見直す。

Q3. 国内の足元の消費動向や 10 月以降に予定されている価格改定の受容度についてどう見ているか。

足元の販売動向は、全体として堅調に推移していると認識している。第 3 四半期には価格改定を予定しているが、同時に需要期でもある。第 2 四半期からマーケティング活動を強化し、販売基調の維持・向上に努めていく。

Q4. 北米では基盤強化等の新成長戦略に向けた取り組みを開始しているが、近い将来に成果が確認できそうなものや、注目すべき施策はあるか。また、PB・OEM の売上減少はどのように見ればよいか。

北米では、第 1 四半期は営業・マーケティング人員の強化など、将来成長に向けた先行投資を行っており、下期以降の成長に向けて、製品ラインアップの拡充やデジタルマーケティング施策の準備を進めている。これらの施策の効果は下期以降に徐々に顕在化していくと見ている。

PB・OEM については、利益構造の改善を目的に、収益性の低い SKU の整理や取引内容の見直しを進めたことが売上減の主因であり、利益への影響は限定的と認識している。北米の減益については、成長戦略に向けた体制強化費用や一部物流費の上昇などが影響しているが、利益は計画を上回って推移しており、収益回復や生産性改善に向けた取り組みも進展している。

Q5. 英国事業が減収減益となっている背景は何か。これは続くのか。

英国では市場環境が厳しい中、主力ブランドである「Seabrook」の販売が軟調に推移している。収益面では、生産トラブルによるものではなく、売上減に加え、中東情勢の影響などによるコスト上昇が影響した。一方で、GLP-1 関連の消費動向を背景とした Better for you 商品や、アジアンテイストスナックへの関心も見られており、大手小売において限定的ながら新たな販売機会も確認されている。第 2 四半期以降は、価格改定などを通じて収益改善に取り組んでいく方針である。

Q6. 第 1 四半期アジア・オセアニアの利益は良いが、今後のモメンタムの持続性をどう見ているか。

中華圏、タイ、豪州・ニュージーランドが利益成長をけん引しており、前年後半からの基調に大きな変化はない。特に中華圏では、小売店舗向け売上や「Jagabee」の販売が伸長している。一方、中東情勢の影響が顕在化しており、今後は第 1 四半期ほどの増益率が継続することは想定していない。

Q7. 海外全体でリベートが増えており、売上に対する比率も上がっているように見えるが、その狙いは何か。

リベートについては、北米、中華圏、豪州・ニュージーランドなどにおいて、売上成長に向けた販売施策として計画通り活用している。特に北米では、「Harvest Snaps」の販売拡大や「かっぱえびせん」などの Legacy ブランドの販売回復に向けた取り組みにも活用している。

Q8. 米国産ばれいしょの輸入解禁が進んだ場合、カルビーのビジネスにどのような影響があるか。

現時点では、当社の事業環境に大きな影響を与えるものではないと認識している。当社はこれまでも海外産ばれいしょを輸入・使用している。また、害虫や病害への対応についても一定の知見を有している。一方で、足元では円安の影響により、海外産ばれいしょと国内産ばれいしょの価格差が拡大しており、海外産ばれいしょを輸入して国内でスナックを製造する場合、収益面を考慮すると慎重な判断が必要である。当社では、製品を安定的に供給するため、調達リスクの分散を目的に使用するばれいしょの一部を海外から調達する方針を継続している。

以上